

FIDATA HFAS1-S10 の導入(8)

—192KHzPCM 音源の試聴—

1. はじめに

[前報\(7\)](#)の DXD 音源に引き続き、今回は 192KHzPCM 音源の試聴を行います。

2. 試聴条件

今回は 192KHzPCM の各種音源を HFAS1-S10 にコピーし、Kinsky と Lumin アプリにより再生操作を行いました。HFAS1-S10 と micro iDSD は USB リベラメンテで接続します。HFAS1-S10 にはインシュレーターとしてインフラノイズの磁気浮上型マグナライザーを使用しています。今回は、前報(5)までの結果を踏まえて、micro iDSD の前に iPurifier2 を介在させ、HFAS1-S10 の電源ケーブルはパワーリベラメンテを使用しています。

再生ルートは次のようになります。

HFAS1-S10→iPurifier2→micro iDSD→TASCAM DA-3000→MYTEK DIGITAL
192-DSD

3. 試聴結果

使用した音源は BS 録画や CD などから DA-3000 で録音したり、CD からリップニングしたのち PC 上でアップサンプリング処理したもの、さらには e-onkyo からダウンロードしたものなどを使用しました。

これまでの報告で DSD 音源の音の良さは十分認識してきましたが、正直のところ PC オーディオでは限界が感じられていた PCM 音源でここまで音が良くなるかとは期待していませんでした。楽器や声の質感、間接音の響きの豊かさは音源の由来を問わず感じられます。特に CD 由来のものはまったく元の CD とは印象が変わってきます。

なお、DSD 音源の再生で見られたノイズの発生はありませんでした。

3. まとめ

192KHzPCM 音源についても FIDATA HFAS1-S10 の音の良さが確認できました。

以上